

『口腔機能低下症を 知って、診て、治そう』



講師 鈴木宏樹先生

(篠栗病院歯科医長)

日時 7月27日(土)18時~21時

会場 電気ビル「共創館」

(福岡市中央区渡辺通2丁目1番82号)

会員限定 180名 ※定員になり次第締め切ります。

この機会に是非ご入会下さい。

【鈴木先生より】

高齢者にとって「食べられる」事は特に重要である。

食べることは生命を維持するために必要な栄養を摂取することであり、それは疾病の予防や回復、リハビリテーションに大きく関係しているだけでなく、QOLにも大きな影響を与えるからである。そのため歯科や医科に限らず、多方面において、現在あらためて大きな関心を集めている。

「食べられる」口腔を構築・維持することは歯科医療の大きな目的の1つであり、これまでもそこに取り組み、結果を出してきた。しかし高齢化が進んだ現在においてはその方法に大きな変化が生じている。

従前までの「食べられない」は、歯の欠損や義歯不適合などによる器質性の「噛めない」が主な原因であったため、適切な補綴処置等を行う事が改善の方法であった。しかし現在は、前述した器質性の「噛めない」だけではなく、加齢や認知症、脳血管障害などによる運動性の「噛めない・飲み込めない」が原因となっている場合が急増している。つまり、超高齢社会の現状においては、歯や歯周組織だけではなく、口腔機能全般に目を向ける事が歯科に求められているのである。

また、複数の調査・研究等により口腔機能の低下が全身に様々な影響を与える事が報告され、高齢者の口腔機能を維持・改善させる事の重要性が明らかになってきており、平成30年より口腔機能低下症という病名と共に口腔機能精密検査が保険収載された。

しかしながら、まだ口腔機能に関する認知度は低く、よく分からないという声を多く耳にする。

そのため、今回は口腔機能低下症について詳しく説明し、その検査方法や診断・管理・指導方法等についても述べる事で、口腔機能への理解が深まり、日々の臨床に寄与する事ができれば幸いである。

👉 返信先 FAX : 092-473-7182

会員氏名 : _____ ※未入会の先生はご入会ください。

医療機関名 : _____ TEL : _____ 参加人数 () 名